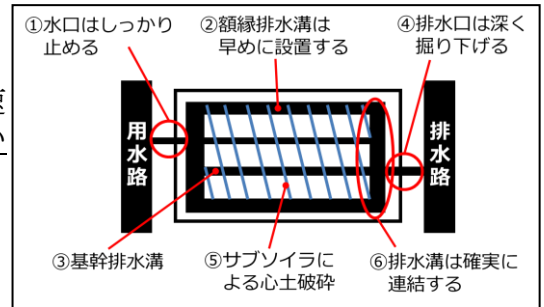


乾いたほ場で耕起・播種しましょう！

1 早めの排水対策

- ・ 水稻早生品種あとほ場を積極的に活用し、稲刈り後は速やかに額縁排水溝や基幹排水溝を設置し、透水性が悪いほ場では心土破碎（サブソイラなど）を行う。
- ・ 水吐板や暗渠のキャップをはずしてあるか、確認する。
- ・ 排水口は深く掘り下げ、排水溝と確実に連結する。



2 土づくり

- ・ 土壌 pH6.0 以上を目標に耕起前に石灰質資材（土カパワー）を散布する。
- ・ 発酵ケイフンの施用により有機物や加里等の不足養分を補給する。

資材名	施用量の目安 (kg/10a)
土カパワー	100~150
発酵ケイフン	100~150

3 耕起・砕土、播種作業

- ・ 播種は適期の10月上旬を基本に、9月26日～10月中旬までに播種を終えられるように作業計画を立てる。
- ・ 乾いたほ場から順に、耕起・砕土、播種の一連の作業を一日で実施する。耕起は低速で丁寧に行い、砕土率を高める。
- ・ 越冬前の目標茎数（600～800 本/㎡）確保のために、播種時期に応じて播種量を調整する。
- ・ 播種深度が3 cm 程度になるよう播種機の調整を行う。
- ・ 畦幅は3～4 mとし、溝深さ20cm以上の排水溝を設置（畦立て同時播種でできた溝）し、額縁排水溝に連結する。
- ・ 播種作業の後は、必ず基幹排水溝や額縁排水溝の手直しを行い、排水口との連結を再確認する。

<播種量>

播種時期	目標苗立数 (本/㎡)	播種量 (kg/10a)
		ドリル播
9月26日～	140	6.0
10月上旬	150	6.5
10月中旬	200	8.5

<施肥量>

肥料名	施用量の目安 (kg/10a)
<肥効調節> エコ大麦44号	40~45

4 雑草対策

- ・ 雑草の種類に応じて除草剤を散布する。
- ・ 除草剤の効果を高めるため、砕土率を高める。

散布時期	カラスノエンドウが多い場合	除草剤名	適用雑草	10a当り散布量	散布方法
播種後～麦2葉期	※播種2週間後	リベレーターG	1年生雑草 (カラスノエンドウ、カズノコグサ)	4～5kg	全面土壌散布
播種後～麦3葉期	※播種3週間後	リベレーターフロアブル		60～80ml (水100ℓに希釈)	雑草茎葉散布または、全面土壌散布
大麦節間伸長開始期まで (3月頃まで) (広葉雑草2～4葉期) 収穫45日前まで	—	エコパートフロアブル	1年生広葉雑草	50～100ml (水100ℓに希釈)	雑草茎葉散布または、全面土壌散布

※カラスノエンドウに効果のある「アクチノール乳剤」が製造中止となったため、カラスノエンドウが多い場合は、「リベレーターG」または「リベレーターフロアブル」を散布時期の目安を参考に散布する。

8/20～10/20 秋の農作業安全運動実施中